

## 第1回 aaca サロンの開催報告

建築家  
会員増強委員会委員長  
日本建築美術工芸協会会員  
芝山哲也



会員増強委員会では、当協会の活動をより強化し建築や芸術に関わる人々への更なる貢献を目指すべく、会員の皆様のご協力のもと新規会員の勧誘活動を実施しています。去る、9月30日に新規会員の方を中心とした交流の場として「aacaサロン」を開催しました。特にアーティストやデザイナー系の新会員の方々に発表・交流の場を提供することで、入会の動機づけになればとの考えです。また、作家の活動や作品の紹介を通して、会員同士の交流だけでなく、創作活動への刺激が得られ、更にビジネスチャンスを提供できるようなイベントになることも開催目的のひとつとなっています。

場所は建築会館1階のギャラリーにて開催しました。今回は、丘の上事務所代表の酒匂克之氏、都市環境照明研究所長の武石正宣氏、氏デザイン株式会社代表の前田豊氏の3名の方が登壇し、佐藤総合計画の渡辺猛氏がコーディネーター役を務めました。テーマは、『湾型ライブラリー』を創る“境界なき協働”のありかた」と題し、渡辺氏が建築設計を担当した長崎県立+大村市立一体型図書館『ミライ on』における計画・デザインについて語り合いました。このプロジェクトにおいて、酒匂氏はインテリア（家具）デザイン、武石氏は照明デザイン、前田氏はサインデザインを担っており、その協働プロセスを主な題材として活発な議論が繰り広げられました。

最初に建物の概要が説明され、その後3氏がそれぞれご自分の考え方を他の作品事例も交えてプレゼンテーションし、聴講者の皆さんの質疑に答えるかたちで会が進められました。ディスカッションの一部を紹介しますと、酒匂氏からは建築設計者のコンセプトに家具やインテリアという領域でどう応えていくか、今回の施設では書架という図書館で最も重要な家具を中心に、ゾーニングや動線にストーリー

性を持たせることが重要だったという説明がありました。武石氏からは、その書架の上部に照明器具を配して天井を柔らかに照らし上げる手法を取ったことと、大きな空間の中で天井照明を設けない計画の合理性が語られ、最後に前田氏からは、図書館は親しみやすさが重要であり、そのデザインモチーフを長崎の街のあちこちにあるアーチ形の造形から拾い上げたという説明がありました。また、サインと照明計画の絶妙な相乗効果も議論の題材となりました。

会場からは、サインのデザインモチーフの考え方について賛否両論の意見が交わされたり、3者のコミュニケーションプロセスについての質疑などもありました。それに対して、家具・照明・サインデザインそれぞれにおいて、業務フェーズや各デザイナーがプロジェクトに関わる時期にもズレがあり、全員で議論を深める時間が限られていたことなど、“境界なき協働”を実現する難しさについても議論されていました。

今回のサロンは40名近い参加者となり、最後に岡本会長からも興味深い会であったとのご感想と、継続のご要望をいただきました。会員増強委員会としては、このサロンが参加者全員で活発な議論ができる場となることを目指し、更に改善も加えて次回以降を企画していきたいと考えています。会員の皆様もご自身のお知り合いのアーティストの方には是非お声掛けいただき、このようなサロンの場をご提供されては如何でしょうか？

既会員の方も、新会員の方と協働された作品や活動を題材にご登壇ください。「aacaサロン」を会員の皆様の積極的な交流の場として活用していただくと同時に、会員増強活動にも寄与していただくことができると考えております。皆様の活発なご参加をお待ちしております。



第1回 aaca サロン



約40名の参加者があった



長崎県立+大村市立一体型図書館「ミライ on」